

- ・協定特集 …………… (1)
- ・留学生行事、日本人学生行事、  
地域交流 …………… (2)・(3)
- ・国際交流センターの仕事 … (4)

## 資源開発と人材育成、 ボツワナ訪問に見る今後の期待

平成25年9月16日～9月18日の3日間ボツワナ共和国を訪問しました。主な目的はボツワナにおける資源分野の動向調査ですが、ボツワナ大学やボツワナ国際科学技術大学を訪ね、秋田大学大学院「博士課程教育リーディングプログラム」の説明&学生募集に加え、現地の学生に向けて最新の研究内容を紹介してきました。その他にも今回はJOGMEC（石油天然ガス・金属鉱物資源機構）地質・リモートセンシングセンター、JICAボツワナ事務所、在ボツワナ日本大使館を訪問したほか、ボツワナの国営資源企業であるBCL社の関係者と面会し、最近の資源情勢や資源学教育の動向について意見交換を行いました。各施設を訪問する度に、ボツワナの資源産業の重要性を耳にしますが、主要鉱産物であるダイヤモンド以外に、例えば鉄鉱石をはじめ銅や石炭、レアメタル、白金族などの資源探査を進めていること、最新の資源生産技術の導入を検討していること、さらに大学生を含む資源開発人材の育成に力を入れている様子を感じ取ることができます。一方、資源分野が重要とは言え、ボツワナでは大学・大学院教育が十分に整っていない面があり、日本に留学を希望する学生が多いのも事実です。ボツワナ大学、ボツワナ国際科学技術大学で最新の研究成果を紹介した際も、教員や学生が大いに関心を示し、多くの質問が寄せられました。また共同研究を含め将来構想についても協議しました。ボツワナでは資源分野に限らず、教育研究基盤を整備・強化しなければなりません。我々の積極的な支援や交流によってボツワナが一層発展し、新しい二国間の関係が構築できるものと期待しています。



(柴山 敦：工学資源学研究科 教授)

## ボツワナ・南アフリカ協定校訪問

ボツワナ大学、ボツワナ国際科学技術大学において、大学間交流を更に活発化させる協定と国際資源学部を含めた秋田大学資源分野の教育プログラムを紹介してきました。

また、南アフリカのヴィッツ大学において、今年度内に学術協定を締結する方向で協議を進めることで合意しました。



ボツワナ大学理学部長と一緒に



ヴィッツ大学鉱山学部棟玄関の鉱山労働者像

(高橋嘉行：国際交流アドバイザー)

## カナダ ニューファンドランド州 メモリアル大学訪問と学術交流協定の締結

平成25年6月30日～7月5日、カナダ ニューファンドランド州のセント ジョーンズ市のメモリアル大学を訪問し、秋田大学との学術交流協定および学生交換に関する覚書の調印式を行ないました。

日本とカナダの政府間で、日本の大学とカナダの大学間でコンソーシアムを形成して、資源学関連分野の人材育成を進めるという構想があり、カナダ側コンソーシアムの一員であるメモリアル大学の副学長らが、日本側コンソーシアムの調整役である本学を、平成24年の11月に訪問し、交流を行なうことが合意されました。その後、平成25年2月にも本学からのチームがメモリアル大学を訪問して共同研究や学生の派遣の可能性を探るなど、協定の締結へ向けて協議を続けてきました。

厳冬の地らしく、メモリアル大学のキャンパス内の主要な建物は寮も含めてすべて地下道で連結されています。かつて鉱山会社のINCO社（現Vale社）より寄贈された資源学分野の研究センターには最新の分析機器類が揃っており、大学院生の短期滞在による共同研究を歓迎するとのこと。平成25年11月に秋田で開催されたICMR2013にはメモリアル大学から3名の研究者が参加しました。

今後、研究者および学生の交流が盛んに行なわれることが期待されます。

(今井 亮：国際交流センター 副センター長)

## 5年目の第三の故郷を見つける農家民泊

今年で5回目となる農家民泊事業（秋田地域留学生等交流推進会議主催、公益財団中島記念国際交流財団助成・日本学生支援機構実施事業）も無事終了しました。昨年に引き続き、「第三の故郷を見つける農家民泊」をテーマに、県内高等教育機関の留学生・日本人学生とともに仙北市西木町を訪れました。10月5日・6日には8軒の農家に分かれての農作業・農家民泊体験、11月9日には地域のコミュニティセンターで再会し、お米を使ったさまざまな料理作りと記念アルバム作成・贈呈を行いました。（**牲川波都季：国際交流センター 准教授**）

## 参加学生から

ベトナムから来て6年、初めて農家民泊体験に参加して本当に良かったと思います。まず、秋田大学と秋田県立大学、国際教養大学の友達がたくさんできました。国際的な交流をしながらの農家体験は最高の二日でした。そして野菜の美味しさにとってもびっくりしました。宿泊した“のどか”では、本当に暖かく歓迎していただき、自分の実家に帰った気持ちでした。今も愛情や印象が残っています。日本のことが好き、秋田のことが好きと思っており、とても楽しい体験ができて、関係者のみなさん本当にありがとうございました。これから、どんな空に飛んでも、この農家民泊体験の思い出は私の宝物でいつでも忘れません。



（**グエンティチュチュイ：工学資源学研究科博士前期課程1年**）

## 参加学生から

今回の農家体験は日常生活では経験できなかったいろいろなことができ、本当に特別な思い出になりました。特に、母国では栽培されていない様々な農産物を見たり、収穫したり、その農産物で作られた料理を食べることもできてとてもいい経験だと思います。さらに、ニンジンを自分で掘って食べましたが、これまで普通に食べていたニンジンが料理になる前までにこんなに人の苦労が必要なものだということが分かり、食べ物の大事さも感じる事ができました。

また、農業体験そのもの自体も良かったですが、日本の家庭をそのまま体験できたことがうれしく感じました。日本に留学していますが一人暮らしで外国人専用の寮に住んでいるため、なかなか日本の家庭を体験する機会がなかったです。今回の農家体験では民宿の家族と交流しながら家族の暖かさを感じることもでき、日本家庭を経験することもできました。



（**鄭 多 珍：教育文化学部特別聴講生**）

## 夏の旅行

七月の初旬に異国の留学生たちと見学旅行に行ってきました。

前の日よく寝られなかった私はずっとバスの中で寝ていました、知らないうちに「田沢湖についたよ」と呼ばれて起きました。以前田沢湖に来たことがあります、多くの魚が元気よく餌を奪い合う風景は、きれいな田沢湖をさらにポイントアップしました。

尾去沢鉱山では、非常に寒い空間で精一杯銅鉱を採掘してきた古い時代の人々の強さに感動し、その姿が見えるようで、つい寒さを忘れました。そして現代人の知恵を感じました。時間を気づかずに、楽しい一日が終わりました。夜は秋田大学の乳頭ロッジに泊まりました。おいしい和食をたっぷり食べ、お風呂に入り、旅行の疲れを安らげたり、みんなとランプやゲームを楽しんだりしました。

後生掛の温泉も面白く、私にとって温泉は初体験でした。上流から流れてきた温い温泉水を触り、噴きでる蒸気を見つめるのは面白かったです。それから、刈穂酒蔵も見学してきました。工場に入り、すぐお酒の匂いが湧いてきて、さすがの銘酒で、美味しそうだなと思いました。試飲もすることができました。中国のお酒と日本のお酒はアルコールに確かに違いがあるが、刈穂はすごくうまいと思いました。

二日間秋田を回ってきて、様々なところを体験しました。いつも田舎だと言われている秋田にもそんなに多くの面白いところがある。いろいろないい思い出を残すことができる。秋田での留学生活は心から有意義だと感じており、秋田に「ありがとう」と言いたいと思っています。

（**斉 恒：教育文化学部特別聴講生**）

## What a fun in English days.

Be a part of volunteers in Higashinaruse Village was incredible chance for me. Briefly, the activities was about learning English and exchanging cultures between Akita university students and Higashinaruse ones. We had enjoyable times there which gaining me much as a personal too. During the time I realized about some facts about Japanese students. They have really good English. Then what' s another one? I saw that they were just too shy in using their English. It might be because English is not daily language; it is something common. For that, we just need to create English atmosphere for students. English could be not important inside our country, but we are international people which need global communication to get advantages on it. Global Yume was a wonderful atmosphere English learning and building self-confidence for all participants. Students participated very well in global Yume at the end. They started to be more confidence and comfortable to show their English abilities. You will be surprised if never knowing before. Overall, students in junior high school did excellent. What they need more is only to enhance their English conversation frequencies and to build confidence experiences. Otherwise teachers are really helpful to students; it is what students need to get their English better. The program was successful enough in my perspective. We got time for English days.

（**Stephanie Saing：工学資源学研究科博士後期課程1年**）

## カーティン大学（オーストラリア）との国際交流協定

カーティン大学は、2010年までカーティン工科大学として親しまれてきた大学です。バイオテクノロジーなどの工学、ビジネス・経営の分野でも名が知られている大学ですが、特に西オーストラリア鉱山学校（WASM, West Australian School of Mines）を理工学部内に持ち、ここを中心に世界屈指の資源系の教育研究が行われています。メインキャンパスは、西オーストラリア州の州都・パースに広大なキャンパスを抱える一方で、資源工学の一部はパースから内陸に約600km入ったカルグーリーにキャンパスを構えています。カルグーリーはオーストラリアのゴールドラッシュ発祥の一つで、また現在も巨大な露天掘り金鉱山に接して町が形成されています。

私が2012年9月から半年間、カーティン大学に滞在したことが一つのきっかけとなり、大学間協定の話し合いを進め、2013年3月には国際交流センターの今井亮教授他とカルグーリーキャンパスを訪問し、WASMの学科長ステイブ・ホール教授らと正式の会談を持つことで、学術協定の締結を進めることで合意が得られ、2013年8月に調印がなされました。

秋田大学にとってカーティン大学との協定提携は、多くの資源を有したその資源を日本が輸入するオーストラリアの大学・企業との接点として大きな意味があります。この協定をステップとして今後も教育、研究、人材交流を盛んに進めていきたいと考えています。

（安達 毅：国際資源学教育研究センター長）

## 留学生歓迎式

平成25年度の秋学期には、16ヶ国・地域から計50名の留学生が秋田大学に集まりました。

今学期の新留學生の多くは、プログラムに参加する秋田大学の国際交流協定校からの交換留學生で、日本に来るのは初めてという學生が大多数です。

そのような新留學生に向けて、9月26日に「平成25年度秋学期 新留學生オリエンテーション」を開催しました。山本国際交流センター長からの歓迎の言葉に始まり、留學生の自己紹介、秋田での生活についての注意事項、秋田県国際交流協会の諸行事等の説明と続きました。来日したばかりの留學生にとっては、難しい内容だったと思いますが、最後まで全員がきちんと耳を傾けていました。

オリエンテーション後に行われたウェルカムパーティでは、留學生宿舎周辺の近隣町内会のみなさんや、留學生のチューターをしてくれている日本人學生などが加わり、約80名のにぎやかな会となりました。

秋田に着いたばかりの留學生にとっては、忙しい一日でしたが、オリエンテーションの内容を踏まえて、秋田での留學生生活を無事に楽しく過ぎて欲しいと思います。

（吹谷美穂：国際課）

## ブータン訪問について

8月11～14日の間、山本副学長（国際戦略担当）、榎本学長特別顧問、浅沼教授（医学系研究科）とブータンを訪問しました。訪問の目的は王立ブータン大学健康科学院（以下、RIHS）との交流を促進することです。また、RIHSで研修を行う吉田助教（医学系研究科）と医学部保健学科学学生2名も今回の訪問に同行しました。

8月12日にはRIHSの代表者と共同研究、研究者の受入れ、吉田助教と両学生の研修について協議いたしました。その後、山本副学長、榎本学長特別顧問、浅沼教授はRIHSの学生と教職員を対象に各専門分野についての講演を行いました。講演会には隣接するティンブー国立病院の医師も聴講に訪れました。8月13日にはあらたに創設される医学系大学に招待され、学長候補者と面会しました。ブータンで2番目の国立大学として、数年後の開学に向けて組織や設備を整備しているとのこと。医学教育などの分野を中心に、秋田大学の協力を得たいとの依頼を受けました。8月14日はパロ地方の中核病院を訪問しました。院内を見学しましたが、設備や環境は日本のものとは大きな差がありました。

来年にはRIHSの研究者が秋田大学を訪問することになっています。今回の訪問で協議した内容を踏まえて、今後もブータンとの交流を進めていきたいと考えております。この場を借りてRIHSとの交流促進にご尽力頂いた浅沼教授に感謝申し上げます。



（滝川敏生：国際課）

## 秋田への思い出 AUEPプログラムに参加して

秋田、秋田美人と米の出ると言われるところだ。

この秋田に初めて訪れたのは、もやは三年前のことだった。日本へも、秋田へも、何も分からないままの私が、交換留学のチャンスでどっと秋田に来ました。

AUEPプログラムのお陰で、本当に素晴らしい一年間を楽しみに過ごしたのだ。授業、テスト、発表、バイト、卒論などに追われる骨折りの日々じゃなく、農家での宿泊、北海道への旅、知らない世界への探索を満たした一年間だった。これこそ、AUEPプログラムからくれたタダイの収穫かも…。

皆さんも是非、秋田に来て、楽しい毎日を過ごしてください。



（汪金丹：教育文化学部研究生）

## 蘭州大学研修報告

中国西北部,甘肅省蘭州市にある蘭州大学。9月から3か月間研修を行ってきました。

研修では蘭州大学国際処での業務補助を中心に,学生に向けた日本文化の授業,中国語授業の受講を行い,国際処では英語・中国語から日本語への翻訳作業,日本語文書の添削,日本人来訪者の対応補助等を行いました。

蘭州大学は学生約40,000人のうち約500名の留学生が学ぶ大規模校です。そのため,国際処の仕事も一人ひとりが地域毎,分野毎に細かく分かれていて,各々の専門性が高いです。このような仕事ぶりを学ぶべく,時にはお互いの仕事について長く語り合いながら,業務に励んでいます。この経験は,自分の目で見て体験して初めて実感できることです。仕事を始めて3年目で秋田大学を離れてみて,客観的に秋田大学を見ることが出来る良い機会となりました。

初めて「外国人」の立場に立ったことで,異国の地で暮らす際に何をサポートしてほしいのかをすぐに実感出来たことも,国際課職員としての大きな「経験」だと思っています。  
(宮崎 舞:国際課)

## 北東北国立3大学国際交流実務担当者情報交換会に参加して

平成25年8月20日に弘前大学で行われた第10回北東北国立3大学国際交流実務担当者情報交換会に参加しました。情報交換会では,留学生交流支援制度の各大学の実施状況,各大学の短期留学プログラムの合同実施の可能性,留学生への経済支援方法等が話し合われました。特に留学生受け入れ体制に関しては,各大学とも共通する問題点が多く見られ,解決案を提供しあいました。

現在,200名を超える留学生が秋田大学で学んでいます。今後も弘前大学,岩手大学と連携を深めながら,留学生の生活環境を整え,質の高い日本語教育プログラムを構築していきたいと考えています。

(市嶋典子:国際交流センター 講師)

## 自己紹介

皆様,初めまして。倉科芳朗と申します。国際協力機構(JICA)から出向し,この度,国際交流推進役を拝命いたしました。優秀な前任者の後で,比較されると厳しいものがありますが,秋田大学の国際化に微力ながら尽力いたします。

JICAではケニアに3回も赴任し,合計8年半アフリカ生活を満喫した東京生まれの中年ケニアです。アフリカは治安面の懸念があるものの,経済成長は世界平均を上回っており,将来的にも中間層の増加が見込まれる魅力的な市場であるとの評価も受けています。

しかしながら,現状では課題も多く,たとえばアフリカの域内物流は14%に限られ,北米の40%,ヨーロッパの63%と大きな隔りがあります。これは富が地元に残らず,海外に流出しているとも言えます。このような現状を革新したいと現地の人々は考えており,そのために国際社会に通用する人材の育成が重要となっています。

アフリカに限らず途上国の人々は母国の発展,自立のため,いかに開発を真の貧困削減に繋げるかを模索しています。戦後復興を遂げた日本は,途上国からメンターとしての役割を期待されていると感じます。資源,保健など様々な知見を持つ秋田大学が推進する国際交流の一助になれば望外の喜びです。  
(倉科芳朗:国際交流推進役)

## 専任教員からひとこと

センターニュース本文でも書いたように,今年も秋田県仙北市西木町での農家民泊事業が成功裡に終わりました。この成功の原因は,事業にかけるそれぞれの願いをよく知り実現し合っていこうとする,グリーン・ツーリズム西木研究会メンバーの平等かつ民主的な関係性にあるのではと感じています。11月9日(土)の収穫感謝祭でも,学生がアルバム作りに励んでいる間,農家の方々は台所でしきりに何か話されており,終わってから小さな反省会をされたようでした。ここが悪かった,今度はこうしよう,こうしたいとみんなで話し合い,自分たちにとっても来訪者にとっても満足できるようにしていこうという意思が,事業を進化させていきます。秋田大学の国際交流に関わる人たちもそれぞれに願いをもっているはずで,その願いを一つひとつかなえていくことが実質的で堅牢な国際交流支援体制を築いていくことになるのではないかと。そのために必要なメンバー同士の関係性のあり方とは何か。5年目の農家民泊事業を終え,また西木町から新たな問いを突き付けられた思いがします。(牲川波都季:国際交流センター 准教授)

### ■国際交流協定校情報

大学間協定(合計25ヶ国・地域:49大学等) 部局間協定(合計8ヶ国・地域:15学部等)

(2013年11月21日現在)

### ■秋田大学の留学生数

合計209名 学部生:101名 大学院生:51名 交換留学生・研究生等:57名

(2013年11月1日現在)